



寄付金を受け取る小沢昌記市長

市は7月18日、市卓球協会（柏山徹郎会長）からの寄付金を受け取りました。これは、6月27日から30日まで本市を会場に行われた「第26回全国ラージボール卓球大会」で同協会が募金箱を設置。集まった約6万円と同協会からの約4万円の計10万円を市に贈呈したものです。小沢市長は、震災復興に役立てることを約束しました。

## 「全国ラージボール卓球大会の募金を寄付」



調印を交わした小沢昌記市長と大門代表取締役

（有）トランスディー（本社・東京都江戸川区、大門鉄美代表取締役）が進出することになり、調印式が7月16日、前沢総合支所で行われました。精密医療機器の輸送などを行う同社は、交通アクセスにも優れる前沢区の本杉工業団地に営業所を開設。大門代表取締役は「関東と東北を結ぶ輸送力を高めたい」と抱負を述べました。

## 「（有）トランスディーが前沢に立地」

ころもがわ

# 衣川地区振興会

- 代表者：会長 佐藤 利男
- 人口：1,811人（男882人／女929人）
- 世帯数：584世帯
- 拠点：衣川地区センター  
（衣川区古戸15番地10 ☎023426）  
（平成25年6月30日現在）



～ 30の地区振興会による協働のまちづくり実践事例 ～

衣川地区振興会は、平成19年に設立。各種事業などを①総務部②生涯学習部③生活環境福祉部④地域振興部——の4つの専門部会で運営しています。佐藤利男地区振興会長は「協働のまちづくりを進める市において、地区振興会の存在意義と役割を常に意識し、各行政区と共に事業運営に取り組んでいます」と語ります。振興会には、各行政区からも2人ずつの評議員が振興会事

特色のある地区振興会の事業を紹介するこのコーナー。シリーズ16回目は、衣川区の衣川地区振興会を紹介します。

衣川地区は、衣川区の中心部に位置し、稲作を主として、リンドウ、ハトムギなどの栽培が盛んな地域です。

また、同地区には数多くの歴史文献などに記されている平安時代の安倍氏三代（忠頼・忠良・頼良）の城郭とされている安倍館や一首坂などをはじめとする史跡が点在しています。平安時代の歌人・西行は「衣川みぎはによりてたつ波は きのの松が根あらふなりけり」と詠み、清流「衣川」に心を奪われたといわれています。



地域住民で行う環境整備

業に参画しています。地域一体となり事業を進める衣川地区振興会。その中から主な事業を紹介します。

### ■一首坂・安倍館整備事業

平安時代の前九年合戦で落城したとされる「安倍館」、源義家の呼び掛けに、安倍貞任が一首で返したことが名前の由来とされる「一首坂」など、由緒ある史跡が多く点在している同地区。

この貴重な歴史資源を後世まで保存・伝承していくよう毎年、整備事業を行っています。安倍館は地元石神行政区が、一首坂は古戸行政区が中心となって「自らの資源は自らの手で守り、伝承していく」という精神のもと、草刈作業などの環境整備に取り組んでいます。この2つの史跡は、多くの観光客が訪れる場所。観光客がいつでも気持ちよく巡れるようにと、地域住民が定期的に整備を実施しています。

### ■地域見守り隊事業

社会問題になっている全国的な高齢化。衣川地区においても、少子高齢化が進み、高齢者の一人暮らし世帯が増えています。同振興会では、安心して暮らせるように、高齢者世帯を地域全体で見守ろうと「なじよってがす？ バッグ」を製作しています。これは「いかがですか？」「元気ですか？」という意味の方言で、行政区長や班長が文書配布などで各世帯を巡回する際に使用。この言葉で声掛けをすることで高齢者の様子を見守る意識を醸成しています。また、一人暮らし高齢者が、火災や事故、病気などの緊急時に慌てずに消防署への連絡や情報提供ができるよう「家族のお守り」を地区の各世帯に配布しています。



バッグと家族のお守り

### ■世代間交流かるた大会

世代を超えた交流を深める事業も展開しています。代表的なものは毎年1月に行われる「衣川歴史かるた大会」。衣川の歴史を題材とした衣川歴史かるたを使用し、小学生が、高齢者サークル「サロン」の参加者たちと一緒にかるたを楽しんでいます。郷土の歴史と文化を勉強する良い機会となっています。



かるたで歴史を勉強

## 「奥州ものづくり塾を開催」



講義を熱心に聞き入る塾生

市主催のものづくり人材育成講座「実践的！奥州ものづくり塾」が7月25日、水沢区の県立産業技術短期大学校水沢校で行われました。同講座は、市内製造業の現場改善の決定や実践に携わる管理監督者などのリーダーを対象に開催。2回目のこの日は、市内から21人が参加。「品質重視のものづくり」と題して、塾長を務めるシニアコンサルタントの黒岩健吾氏による企業経験の経験が踏まえた講義と、グループ討議が行われ、塾生たちは活発な意見を交わしていました。

## 「おめでどう！百歳を祝い2人に記念品」

市は、満百歳を迎えた2人に記念品を贈り、長寿を祝いました。



祝福を受ける貞男さんと妻のマシヲさん

佐藤貞男さん（胆沢区小山字峠Ⅱ）は同区小山に生まれ、20歳でマシヲさんと結婚。2男2女をもうけ、孫9人、ひ孫17人に恵まれました。北海道での奉公を経て、文房具店や金物店を開業。還暦を過ぎたころ、長男の故・優さんに仕事を任せ一線を退きました。86歳ごろまで日曜大工や新聞配達をしていました。この日は妻のマシヲさんも出席。8月19日に結婚80周年を迎えることから、併せてお祝いを



はっきりとした声で心境を語る清治郎さん

しました。千田清治郎さん（胆沢区南都田字林福野Ⅱ）は同区南都田に生まれ、20歳の時に現在地に転居し、24歳のころに故・チヨさんと結婚。1男1女をもうけ、孫5人に恵まれました。28歳で中国東北部に出征しましたが、終戦となり無事に帰国。その後、夫婦で農業にいそしみました。読書や尺八など趣味が多彩で、友達もたくさんいました。今は週3回のデイサービスが楽しみで、長寿の秘訣は「よく歩き、粗食だったこと」と、長男の一男さんが話してくれました。